

モータースポーツ観戦記

第1班

F・D style

自動車レースって見たことありますか。「有るよ、テレビでF1見ているよ。」って方は、沢山いると思います。その中で、レース場で見たことのある方は、何割ぐらいいるのでしょうか。日本の経済に占める自動車産業はかなりの部分を占めています。何しろトヨタ自動車は、世界一位のメーカーとして長年君臨しております。しかし、事モータースポーツの功績についてはあまり知られていないように思います。例えば、松山英樹マスターズ優勝や大坂なおみ全米オープンテニス優勝等は、政界・経済界挙げて多くのマスコミが取り上げます。

モータースポーツ界には三大レース（日本人は三大〇〇が好きですね）と云われる物があります。

- F1グランプリ（ホンダ：コンストラクター獲得。残念ながら日本人選手の優勝経験は無）
- ルマン24時間レース（トヨタ自動車5連覇2018～2022 日本人選手多数優勝有）
- インディ500（佐藤琢磨選手2度制覇）

ですが、記憶に残っている方も少ない、日本モータースポーツの現状です。

前置きが長くなりました、モータースポーツ観戦記についてお伝えしてまいります。

今回行われたスーパーGTシリーズについて簡単に説明いたします。

モータースポーツは大きく分けて2種類になります。

タイヤむき出しのフォーミュラカー（F1が有名ですね）

そして今回行われるハコ車レースと言われる屋根のあるタイプの車です。（GTカー）

- GT500クラス（最高速300KM以上）

トヨタ・ホンダ・日産 日本の三大メーカーが威信をかけて創り出したモンスターマシン14台により争われるクラス

- GT300クラス（最高速280KM以上）

世界のスーパーカー フェラーリ ランボルギーニ メルセデス ポルシェ アストンマーチン

日本のスーパーカー GTR NSX SUPRA 等他に独自のJAF-GTマシン等

15車種 30台以上で争われるクラス。

速度の違う2クラスが同時に混走するので、500クラスは300クラスをいかに上手く抜くか、300クラスはミサイルの様に追ってくる500クラスに抜かれながら、ポジションキープをしてレースをしています。

チームはドライバー2名以上 2回のピットストップが義務付けられタイヤ交換・ドライバー交代・給油等各チームの戦略により勝敗も左右されます。

タイヤは4メーカー プリヂストン・ヨコハマ・ダンロップ・ミシュランを各チームが選んで履いています。柔らかめ、固め等気温・路温によりタイヤゴムの溶け方が変わりコースへの食付きが変わってきます。（スリックタイヤ 溝の無い表面がつるつるのタイヤです）

エアロパーツにより大きなダウンフォース（飛行機が浮き上がる反対の現象）が生まれ路面に強く押し付けられる事によりタイヤのグリップが上がりコーナーリングが有利になります。

つまり、スリップしにくくなる訳です。

そして、レースにはつき物の接触事故などで状況も刻々と変わっていきます。

この様に各チームが色々と戦略を練りながら、戦っていきます。

しかし、GT500クラスでは日本トップクラスドライバー28名が戦います。究極のモンスターマシンを物凄いスピードで超安全運転をしているとも言われています。

シリーズは年間8戦を戦いますが、勝利をするごとにウェイトを積んだり、エンジンの燃料供給を遅くしたりハンデキャップを負わされます。これにより、年間を通して一定のチームが勝ち続けるのが難しくなる様に調整を行います。

つまり第1戦目ではイコールコンディションで争いますが、第2戦目では優勝チームは40Kgのウェイトを積んで走る事になり加速しにくく止まりにくくなります。(サクセスウェイト制 なんか皮肉ですね)勝てば勝つほど苦しくなる逆スライド方式になる訳です。

しかし、このルールにより推しのチームが負けても次戦以降勝機が生まれてくるので、最終8戦目まで年間の優勝チームが分からない争いが生まれます。

ここまでの、スーパーGTシリーズの説明になります。

※富士スピードウェイの特徴

全長：4563mですが、何といても最終コーナーから1コーナーまで約1500m 長いホームストレートになります。(300km/hを超えます。)そして富士山を背景にレース観戦ができるのも見所だと思います。今回私たち夫婦は3日の予選、4日の決勝なので富士スピードウェイの駐車場で車中泊をしました。もちろん火気には十分注意が必要ですが、富士スピードウェイでは焚火台を使ってBBQが出来ます。レース中のドライバーも焼肉の匂いがあると聞きました。天気は予報通り3日の夕方から猛烈な雨風の為焚火は出来ませんでした。材木屋なので薪は沢山用意したのですが、残念でした。

今回私達が観戦したのは、5月3日・4日に行われた

スーパーGTシリーズ第二戦富士スピードウェイ3時間レース になります。

5月3日公式予選日 曇り 気温23度 14:20開始

ポールポジション(決勝のスタート順位)を決めるタイムアタック。

GT500クラスポールポジション14号車トヨタGR SUPRA 福住仁嶺選手

GT300クラスポールポジション61号車スバルBRZ 山内英樹選手(コースレコード達成)

事故も無く、終了しました。

5月4日決勝日 曇り 気温23度 14:00開始

昨晚からの雨でウェットコンディション(濡れた路面)が心配されましたが、朝方から晴れ始めドライコンディション(乾いた路面)で始まりました。

国歌斉唱の後、静岡県警白バイ・パトカーによるパレード走行1周。

セイフティカーの先導でフォーメーションラップからのローリングスタート(レッドシグナルからグリーンシグナルでスタート)

ちなみに、F1はスタンディングスタート(レッドシグナルからオールブラックでスタート)

レース観戦の醍醐味は、やはりこのスタートの時です。

最初にGT500クラス14台が最終コーナーからゆっくり走行して来ます。グリーンシグナルで爆音と共にフル加速。1コーナーでの集団の駆け引きによる先頭争い。遠ざかる爆音。残るのは、オイルの焼けたいやいやタイヤのゴム臭。ロックしたタイヤのスモーク。

次にGT300クラス31台が同じ様にスタートします。

多少の接触は有りましたがどちらも無事にスタート出来ました。

5～6周すると速度差により、GT500が300を抜き始めます。これもスーパーGTの魅力になります。

3時間のレースですから、レースから離れてイベント広場に移動してみました。

自動車メーカー・タイヤメーカー・部品メーカー等のブース。各チームのオフィシャルショップ。ステージでは、レースクイーンのトークショー等が行われています。レースクイーンって間近で見ると同一人種とは思えませんね……………。

観戦に来た沢山の人々、推しチームのウェアや帽子で楽しんでいます。派手なので、街中では中々着られませんね。

そして、キッチンカーが色々な食べ物・飲み物を揃え、所狭しと並んでいます。(生ビール800円)

場内は、シャトルバスが運行しているのでコース廻りのミュージアムやウェルカムセンターまでの長い距離を歩く必要は有りません。

レースは、2回のピットストップでのタイヤ交換・燃料補給・ドライバーチェンジを済ませ約110週のレースになりました。

数台のリタイアは有りましたが、大きなトラブル・事故も無く17:00にチェッカーフラッグが振られ3時間の耐久スプリントレースは無事終了しました。

GT500優勝チーム

36号車トヨタ auTOM'S GR SUPRA 坪井翔・山下健太(今年のチャンピオンチーム)

第1戦で優勝している為40Kgのハンデで2連勝(GT700じゃないのと言われています)

GT300優勝チーム

56号車ニッサンリアライズGT-R KONDO Racing JP オリベイラ・木村偉織

近藤マッチのチームです。

表彰式・シャンパンファイトを見て帰り支度を始め駐車場からの帰り道。ここからが地獄です。

駐車場から、富士スピードウェイの外に出るまで1時間。御殿場インターまで1時間。

約80,000人の観客の殆どが車で来ているのですから仕方が有りません。

しかし、レースの話をしながら帰ると楽しいものです。特に推しのチーム・選手が良いパフォーマンスをした時はなおさらです。

帰宅後は、Jスポーツで録画した予選・決勝を鑑賞しながら一杯。

テレビで観戦すると細かいレース状況が分かりもう一度楽しめます。

これが私のモータースポーツ観戦記になります。

・観戦チケット代 12,000円x2名 ・駐車料金3,000円/台(途中退場可)

・宿泊代 車中泊の為 0円 ・酒つまみ代 いつも通り ・ミシュラン君帽子 5,000円x2

以上